

インターフェロン γ アッセイを用いた牛結核病診断法の導入

研究期間	令和元年度
課題番号	3102
研究実施機関	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生研究部門)
研究概要	<p>牛の結核病は、我が国ではこれまでの乳用牛を中心とした定期検査により、近年の発生は確認されておらず、平成 30 年度から 3 年間、清浄性確認サーベイランスを実施しています。</p> <p>本病の診断は法で規定するツベルクリン検査によって行われていますが、清浄性確認サーベイランス後、牛の結核病の検査をより効率的かつ迅速に行うため、ツベルクリン検査に加え、海外で活用実績のあるインターフェロン・ガンマ(IFN-γ)アッセイを用いた検査法の導入を予定しています。</p> <p>本研究では、国内で初めて行う IFN-γ アッセイを用いた検査法について、検査成立条件を決定し、新たな検査体系を構築するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>新しい牛結核の診断検査法である IFN-γ アッセイ法について、わが国の家畜伝染病の診断体制に即して実証的に検証し、牛群の品種、年齢等の影響を受けずに適用可能なことが確認できました。また、検査標準プロトコルの雛型及び検査作業マニュアルを作成しました。</p>
行政における研究成果の活用方針(令和 2 年 11 月時点)	<p>令和 2 年度中に実施する予定の家畜の伝染性疾病に係るサーベイランス検討会において判定基準を検討後、令和 3 年に、IFN-γ アッセイを家畜伝染病予防法施行規則を改正し、牛の結核病の疑似患畜を判定する本検査として位置付ける。</p>

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載